

牛久：学校周辺に見る自然

第31号 牛久二小

2014年2月9日発行

< 冬の生きもの観察 動物の冬ごし >

1/22、牛久二小4年生との冬の生きもの観察。前号では速報でナナホシテントウの紹介しょうかいをしましたが、今回は、その他に見つけてくれた動物たちについてお話ししましょう。



ココマキリ(左上), ハラビロコマキリ(左下), オオコマキリ(右)の卵のう。

まずは、**コマキリの卵のう**。コマキリの仲間は卵で冬を越しますが、その卵は、卵のうというアワを固めたようなへやのなかに入っています。オオコマキリの場合、一つの卵のうのなかには200～300個の卵が入っているそうです。空気がたくさんふくまれていて断熱効果だんねつこうかがあり、外からのショックにも強いようです。そんなへやの中で、卵は春までねむっているのですね。



左はおなじみのヨコヅナサシガメ。何度も登場しているので、もう覚えてくれたでしょう。グロテスクな姿のよう虫がかたまっているのが初めての方はギョッとしますが、じつはサクラなどの葉を食べる害虫がいちゅうをたいじしてくれるカメムシの仲間なのです。

サクラの幹で集団で冬ごししていたヨコヅナサシガメの幼虫。



高い木の枝に群れでとまっていたカワラヒワ(左)と公園の木の枝にとまっていたキジバト(右)。

次は鳥です。公園ではヒヨドリがうるさく鳴いていました。おおぜいでおしかけたためか、パッと逃げてしまいました。そのかげで、木の枝の中で**キジバト**がじっとかくれていました。草の観察をした休耕田の近くでは、高い枝に**カワラヒワ**が群れてとまり、こちらのようすをうかがっているようでした。草のタネを食べようと、私たちがどくのを待っていたのかもしれませんが。



かわった冬ごしをするものとしては、シロダモの葉の虫こぶがありました。じつは、このポコポコした葉のこぶの中には、1匹ずつ**シロダモタマバエ**のような虫が入っているのです。

その他、冬だけではありませんが、クスノキの葉のものと太い脈みやくの分かれ目には小さなすき間があり、ここに**ダニ**が住んでいることがあります。

シロダモの葉にできた虫こぶ。その一粒の中には、1匹のシロダモタマバエのような虫が入っている。



クスノキの葉のうら、太い脈の分かれ目には小さなへやがあり、ダニが住んでいることが多い。



最後に**アブラゼミ**の抜けがら。けっこうきれいな状態じょうたいで、いくつか残っていました。冬は活動かつどうしている動物はわずかですが、眠ねむったりじっとしながら冬をやり過ごすものはたくさんいるのですね。

【理科支援員：宮内】

まだ残っていた、アブラゼミの抜けがら。